



「第15回新潟県老人福祉施設研究大会と共に！」

特別養護老人ホームさくら聖母の園

園長 松矢 光 一

新潟県が天地人で賑わい始めた2月初旬、第15回新潟県老人福祉施設研究大会を第五ブロックが担当との確認をえて、遅ればせながら第五ブロック役員皆様の知恵をお借りしながら動き始めた。

近藤会長のリーダーシップにより記念講演に三遊亭楽太郎師匠等々と決まり、各部会の役員皆様の協力により7分科会のテーマ、講師等々も順調(?)に決まり8月末日には、ほぼ全体像が見えて来た。

しかし丁度この頃から、思いも寄らない新型インフルエンザの猛威に怯え初める事となった。この時も近藤会長の“どのような事態になろうとも実施する方向で進めてくれ”との心強いアドバイスにより最後まで、方向、方針が揺らぐ事なく進める事ができたのは、大変有り難かった。

さて10月20日当日の朝、予報通りの不安定な気象となり駐車担当者に苦勞を掛けてしまったが、午後には次第に落ち着いた天気となり、ホット^{ひと}一安心。

上越文化会館は約1500席であるが、予想外の大勢が入場するのではないかと心配をしていたが、1100名程度の入場者数となり、ホット^{ふた}二安心。

三遊亭楽太郎師匠はなかなか難しい方と聞いており、対応の心配を少々していたが、大変ご機嫌がよろしく楽屋でも終始にこやかで、そのままの調子でステージに上がり90分の講演を爆笑の内に終わり、ホット^{みつ}三安心。

夜の情報交換会は3会場に分かれたが、各会場共賑やかにそして楽しかったとの報告あり、ホット^{よっ}四安心。

10月21日早朝ホテルの窓一杯、紺碧の空の中に、紅葉に彩られた妙高山の勇姿を見せてくれた。今日の分科会は成功間違い無しの確信を得た。

今振り返って見れば、私は心配しているだけで、様々な所で活躍して下さった沢山の皆さんに支えられて“満貫”で今日の日を迎えられた。心より感謝！

Contents

第15回新潟県老人福祉施設研究大会と共に！.....	1
新潟県老人福祉施設研究大会に参加して.....	2

顧問就任のごあいさつ・新潟県遊技業協同組合「福祉車両」の贈呈について...	3
施設長リレーコラム・編集後記.....	4

新潟県老人福祉施設研究大会に参加して



特別養護老人ホーム
さくら聖母の園
介護支援専門員

齋藤 まり

10月20日～21日の2日間「共に生きるよろこび」をテーマに、地元上越での大会開催ということで、スタッフとして「全体会の司会」大役を仰せ付かり、貴重な経験をさせていただきました。事前に事務局で用意された原稿や、講師の三遊亭楽太郎師匠

が以前講演された際の司会原稿も参考にいただき、万全の体制で当日を迎えるはずが、思ったように心の準備ができないまま本番を迎えてしまいました。

いざマイクを持つと、あとはひたすら周囲を見渡す余裕も殆ど無く、原稿をそのまま読んでいるだけの状態で、自分の役割が終わってみれば、講師の三遊亭楽太郎師匠を円楽師匠と言い間違えること2回。聞き苦しい点多々ありましたが、何とか無事に(?)務めることができたのも関係者の皆様のご尽力と、大会に参加していただいた皆様の暖かい拍手のおかげと感謝しております。



発表を終えて

特別養護老人ホーム
うずらはし
生活相談員

田中 良美

平成21年10月20日～21日の二日間、新潟県上越市で開催されました新潟県老人福祉施設研究大会に参加させていただきました。

分科会のテーマ「個別ケアってなに?～介護実践の取り組みとその成果～」について様々な視点から各施設

で個別ケアについて考えられ、個別ケアへ取り組んでいる事を知ることができました。皆さんの発表を通じ感じた事は、目の前に居る利用者としっかりと向き合いながら支援をする事で「その人らしい」毎日を共に造り上げているのだという事です。だからこそ、苦労の中にやりがい、楽しさや喜びなど見つける事ができるのだと思います。また発表を終えて「今までの成果・結果」を振り返る事で、やりがいや達成感を感じる事ができました。

今後も、一人ひとりのニーズに目を向け「その人らしい」日々の生活の援助に努めていきたいと思ひます。

新潟県老人福祉施設研究大会のスタッフをさせていただいて

特別養護老人ホーム むつみ荘
阿部 智恵子

第一日目の記念講演等の受付をさせていただきました。午前中のパンフレットのセット準備はちょっとしたスポーツのようでした。少しずつ移動しながら、約十種類ほどの資料をひとつの袋に詰める作業です。その数、なんと850セット!! 初対面の方ばかりでしたが、効率よく行なう方法を皆さんと考えながら取り組み、充実してました。受付開始!!「ごくろうさまです。パンフレットをお持ちください。」このフレーズを200回位は言ったような、気持ちよい疲労感を味わせてもらいました。一緒に受付をさせていただいた事務局の田中さん、そしてチームいなほ園の皆さん等、楽しかったです。

地域包括支援センター しろね南
本間 弘行

第2日目に開催された第6分科会に参加させていただきました。

今年度から地域包括支援センターで働き始めた包括1年生の私にとって、地域でさまざまな活動に取り組む先輩方の実践報告を聞いたことは、本当に貴重な体験でした。

また分科会後半の大山典宏氏の講演も、柔軟な視点と豊かな想像力を持つことが必要と訴えているようで、大変勉強になりました。

皆さま、本当にありがとうございました。

顧問就任ごあいさつ



新潟県
老人福祉施設協議会
顧問

大 竹 幸 一

このたび、近藤会長よりお話がありまして7月1日付けで顧問を拝命しました。近藤会長とは、私が県職員時代に高齢施設係長（昭和61年当時介護高齢福祉課）として、喧喧諤諤熱い議論を交わした仲であり、そのことを記憶の隅に残しておられ今回の人事につながったものと思っています。

さて、当時は老人福祉法（昭和38年法律第133号）が制定され、高齢化率8%を超え、いよいよ世界に類を見ない高齢社会への突入を控え市町村を中心に特別養護老人ホーム等の整備が急ピッチで始まった頃であります。（なお、当時は入所措置の時代）

それが現在、当協議会加入施設数が664（特養150施設他）と聞き、ただ驚くばかりであります。

このたび、私が担当します「ふるさと雇用事業」、「緊急雇用創出事業」についてであります。昨年のリーマンショック以来、景気低迷で企業の雇用マインドが低迷する中、県の緊急雇用基金を活用した介護人材確保事業の委託を受け、当協議会が人材派遣業を実施していることはご承知のところですが、第1次（8月実施）、第2次（10月実施）の結果は、介護職員（ヘルパー2級取得希望者・介護福祉士取得希望者）130人募集に対し、110人マッチング、その他職員（資格取得希望なし・介護業務以外の業務）100人募集に対し、31人マッチングの状況であります。

以上、簡単に現状をお知らせしましたが、この事業が真に失業者に対し就業の機会確保につながり、また施設にとりましても必要な人材確保につながっていくよう努力してまいりたいと考えていますので、よろしくご支援をお願いいたします。

最後に、今後ともよろしく申し上げごあいさつといたします。

新潟県遊技業協同組合「福祉車両」の贈呈施設について

本年も新潟県遊技業協同組合様より、本会から推薦をする県内の5施設・事業所に対し福祉車両の贈呈が決定されました。

平成14年度から始まったこの有難いご厚意は、これまでと同様に代表施設において全車両を展示の上、目録による贈呈式が2月中旬頃行われる予定です。

平成21年度新潟県遊技業協同組合「第8回送迎用福祉車両」贈呈施設・事業所一覧

No.	車 種	施設・事業所名	法人（代表者）名等
1	三菱ミニキャブバン ハーティランリフト (補助金額 1,000,000円)	特別養護老人ホーム平成園	社会福祉法人 加茂福祉会 理事長 金 澤 理久夫
2	スズキアルト GII ABS付 (補助金額 479,000円)	デイサービスセンターはまゆう	社会福祉法人 更生慈仁会 理事長 長谷川 まこと
		ショートステイまつはま園	社会福祉法人 春陽福祉協会 理事長 佐 藤 克 栄
		特別養護老人ホーム名香山苑	社会福祉法人 新井頸南福祉会 理事長 長 澤 芳 夫
3	ダイハツハイゼットカーゴ スローパー4WD3AT (補助金額 890,000円)	デイサービスセンターやまびこ	社会福祉法人 やまびこ 理事長 金 澤 誠 一

全5台

施設長 リレーコラム

「雑 感」

御山荘 園長 品川 芳子



恐れ多い事ですが、もうすぐ定年退職する私にバトンが回って参りました。

一昨年の4月に、施設職員を2年間離れておりましたが、縁あって戻って参りました。久々に戻って浦島太郎状態。福祉用語は横文字が多く高齢の私には厳しいものであります。気は若いのですが体力・気力は低下路線をまっしぐら、日々、若いスタッフに助けられております。

去る10月、大型台風通過の翌日、久しぶりに原宿の竹下通りを散策致しました。余波のある荒天候等、それこそ何処吹く風かと若者達は思い思いの格好で街を謳歌していました。私どもの職員と同世代の年頃でしょう。こんなにも多くの幸せそうな人の波、異風の中に流されていると、高齢の私でさえ、普段の生活がばかばかしく思えてみたり、情けなく思えたりと視野の狭さを感じました。ここに居られる方々も明日はどこで、どんな顔でどんなお仕事をされているのかしら等と思ったりもしました。

そして社会は不況の嵐、ハローワークに行くと、会社倒産のあおりで求職中の若者や家族を抱えて就活に明け暮れの方の多い事。しかし介護職への転職には中々、繋がらないようです。そんな中、先月から我が施設に20歳代の男性が転職

して来られ、皆で育てております。何しろ私の一番の自慢は職員のチームワークの良さなのです。「こんな事も出来ないの」ではなく、「出来なくて当たり前」を合言葉に指導を重ねる先輩職員、それに食いついてくれる若者。どちらも施設の宝物なのです。暫くすると若者はきっと、分からないところが分かる人、つまり「転職者の先生ですよ」とエールを送っております。

折しも、政権のチェンジで振り分け作業の進む中、福祉社会には明るい未来を期待したいものです。何と言っても私達の行く道ですもの。そして福祉の仕事を若者が進んでやりたいと思える、生き甲斐のある職場にしなければと若いスタッフを見ていて思うこの頃です。



編集後記

少し前に見たニュースによると、今年のクリスマスプレゼントにかかる費用が、昨年に比べ安価になっているそうです。

金額ではなく、受け取った瞬間に自然と笑みがこぼれ幸せな気持ちになる…贈り物は「気持ちの物差し」で計ることが大事なかなと思います。

皆さんのところにサンタさんは来ましたか？

【小5と母の会話】

母「・・・～そういうことは割り切りも必要だよ。」

子「割り切るってどういうこと？」

母「今回は残念だけど諦めよう、でも未来があるっていうか・・・えっと～（悩）。」

子「意味がわからない。算数には割り切れない問題が出てくるけど、余りが出ても○だよ。」

母「（困った・・・。上手く説明出来ない。）」

世の中は算数のようにはいきません。1+1が3になったり、10や無限数の力を発揮します。人を数字に当てはめることは出来ませんが、もし数字になるとしたら「負の数」にはならないようにしたいです。交わってマイナスになったら大変！あえて試練も良しとしましょうか☆

・・・老施協事務局一同・・・